

# 地域づくり・まちづくりフォーラム in 大和郡山(奈良県)開催報告

## スポーツが広げる！ 子どもの夢・未来・可能性



「スポーツでつながる地域・広がる輪」をテーマに、総合型クラブ育成推進フォーラム in 大和郡山が10月13日、奈良県大和郡山市で開催された。会場には地元大和郡山市をはじめ近隣市町村から73名が参加した。

講演では、元大阪ガス野球部監督でNHK高校野球解説者の長野哲也さんが、自らの経験を交え「スポーツでつながる地域・広がる輪」と題して語った。

シンポジウムでは、大阪教育大学の赤松喜久教授のコーディネートにより、講演に続き長野さんが「トップを目指すことと総合型クラブの関係」について話した後、しまもとバンブークラブの濱口美雪さんと桃山体育王国スポーツクラブの南隆晴さんが、総合型クラブ創りへ向けた経緯や体験談などを熱く語り、討論が繰り広げられた。

すことと総合型クラブの関係」について話した後、しまもとバンブークラブの濱口美雪さんと桃山体育王国スポーツクラブの南隆晴さんが、総合型クラブ創りへ向けた経緯や体験談などを熱く語り、討論が繰り広げられた。

\*\*\*\*\*

### 第1部 講演会

テーマ スポーツでつながる地域・広がる輪～可能性を育てる指導者とは～

講師 長野 哲也さん(元大阪ガス野球部監督・NHK高校野球解説者)

～楽しむことが技術を向上させる原点～ - 長野 哲也さん -

昨今、「スポーツが楽しい」ということが忘れられていないか。楽しむことが継続につながり、おもしろさを追求していくことで技術が上達していく。社会人野球には中学校で野球、高校でも大学でも野球の選手たちが入ってくる。野球漬けの選手たちは、監督の言うように、強くなるために、「やらなければならない」と思っている選手が大半。なぜ頑張れるかという「プロ野球」があるから。

日本代表としてアトランタに行く機会があった。日本の新聞記者が大リーグ選手に「ワールドシリーズで活躍するのに努力し大変だったのでは？苦しかったのでは？」と質問。すると「子どもの頃から楽しい野球を大勢の前でやれるのになぜ苦しいとか、大変だとか質問するのですか」と逆に問われた。日本では野球を楽しんでいないことを痛感した。監督として楽しむことからやらせようと思い、「遊びの要素を取り入れたサッカー」をやってみた。みんな楽しんでた。いっぱい汗をかくことで運動量が増え、次第に体力もつき、やがて技術も上達する。しかし、監督として選手たちに勝たせてあげることも重要なこと。勝つことが増えとおもしろくなる。楽しさを教えていくことは難しいが、積み重ねによって子どもたちはどんどん成長していく。

大学に入って初めて野球をする学生も多い。初心者ほど野球に対する熱意があり、何より野球が好きである。大学の監督をしていた時に学生たちから教えられた。しかし、学生たちに足りないものが2つあった。一つは「体力」である。体力がなければ重たいバットは振れないし、速い球を一塁へ投げることもできない。もう一つは「自信」が足りないこと。自信をもたせるため社会人との試合経験を積んだ。一生懸命楽しんでやることで力がつき、勝ちたいと想う夢を実現していけることも教え子たちから学んだ。やる気、やりたいと想うこと夢を追い続けていくことは、プロだから大学だからできるわけでもない。子どもの頃のスポーツでそういう心を培うことが大切で、やらされるのではなく、楽しいということが大事。これから創っていかれる総合型クラブでは、ぜひ、スポーツが楽しいと思う子どもたちを育ててくださいと語った。

\*\*\*\*\*

### 第2部 シンポジウム

シンポジスト 長野 哲也さん(元大阪ガス野球部監督・NHK高校野球解説者)

濱口 美雪さん(しまもとバンブークラブ:大阪府島本町)

南 隆晴さん(桃山体育王国スポーツクラブ:和歌山県紀の川市)

コーディネーター 赤松 喜久さん(大阪教育大学教授)

～トップを目指すことと総合型クラブの関係～ 長野 哲也さん

日本で一番になろう、プロ野球に選手を送ろう、世界で戦っていく選手を育てよう、私たちの願いであり、こんな願いや想いを持って、体力のある選手や運動能力のある選手を探している。

子どもの頃に色々なスポーツをすることで、色々な筋肉が鍛えられ、体力がつく。こんな総合型クラブが身近にできることは大変意義あること。多くの人と接する中で人間関係など、多くのことを学ぶこ

ともできる。会社でも「人とうまく仕事ができる関係」が一番。

### ～クラブづくりのおもしろさ～ しんどいけどもおもしろい 濱口 美雪さん

今日から始まった保育付のヨガ教室「ちびサポ・ヨガ(ちびっ子サポート)」に参加してきた。小さい子どものいるお母さんたちの育児ストレス解消とコミュニケーションを目指しての開催。保育ボランティアを依頼するため地域の社会福祉専門学校に出向き交渉。学校側も協力的で交渉成立。しかし、学生は「土曜日＝アルバイト」であることがわかった。町に保育ボランティア制度があることを教えてもらい依頼した。打合せの中で安全対策など「きちんとしないといけないこと」を保育士から教えられた。

知り合いや口コミ、コネを通じて地域の人材を捜し、理解と協力を求めている。スポーツドクターも入会し、町内のスポーツ店にも「クラブ会員2割引」の特典協力をいただいている。地域の色々な人と話することで町の話題や情報などいっぱい学べる。しんどいけどもおもしろい。会員は350名。スタッフの信頼感を深め、みんなでクラブを創っていくんだという意識を高めるため、グループワークに時間と労力を費やした。2年目へ移行する時から毎年、スタッフに対して手紙とハガキで次年度の就任意志を確認している。

地域には「なぜ、今さら総合型クラブ」という人が多い。私たちは笑顔と誠意を大事に、島本町に元気の「源(もと)」をつくりたい。スタッフには「私たちは大変意義あることをやっているんだ」という自信と誇りをもって動きましょう！と呼びかけています。と語り、「こんな私たちでも総合型クラブは創れます。楽しそうだなと言ってもらえるクラブを創ってください」と参加者にエールを送った。

### ～クラブづくりは地域づくり～ なぜクラブづくりにかかわっているのか 南 隆晴さん

来年4月の設立を目指している。「だれでも」「いつでも」「世代を超えて」「好きなレベルで」「色々なスポーツを」の5つの柱を設立当初から兼ね備えることは困難なので、子どもたちのスポーツ環境整備にポイントを絞って活動している。既存団体を統括し、君臨するようなクラブではなく文化団体も含め、団体間の連携を深める「パイプ役」を果たすようにしている。



平成14年に体育指導委員会と体育協会で勉強会を開催した。桃山町では色々なスポーツ教室や大会を開催し行政も予算を確保しているので、「総合型クラブは必要ない」ということになり、クラブ創りには取り組まないことが確認された。しかし、どんなものか実際に目で見て確かめてから決めても良いのではとの思いで先進地視察の予算を確保した。5府県6市町、計6ヶ所の先進クラブを視察。どのクラブにもキーマンが3名ほどおられ熱心に話をいただいた。クラブの「カタチ」より「地域のふれあい」を一

番に考えておられ、地域への愛着や熱意を分けていただいた。漠然としていた総合型クラブのイメージから「自分たちにも創れるんじゃないか」という可能性を発見できた。

5町の合併で「体育指導委員は3割削減」「旧町時代のスポーツ教室は廃止」「各種スポーツ団体の統合」があり、地域スポーツの衰退を明らかに感じた。地域スポーツは自分たちでという時代が来た実感するとともに「総合型クラブしかない」という考え方に変わった。体育指導委員を中心としたクラブ創りの準備を開始し、各種団体の会議で説明し協力を呼びかけ、18年度から日本体育協会の委託事業を受けて取り組んでいる。私たちが生まれた地域の衰退を見たくない。子どもの頃に体験したこと、させてもらったこと、を今の子どもたちにも体験させてあげたい。そして、参加者の喜ぶ笑顔と喜ぶ声を聞きたい。クラブ運営に携わり、地域の人とのつながりが着実に強くなっていくことを実感する時が一番のやりがいを感じる。と熱く語り、「地域のキーマンとなって、ぜひ総合型クラブを創っていただきたい。結構おもしろいですよ」とエールを送った。

### ～想いを持って活動し、振り返ったら、総合型クラブ～ 赤松 喜久さん

この会場に来るのにJRの郡山駅から歩いてきた。約40分かかった。風情ある田園の中で稲刈りが終わり、のどかな臭いと香りを感じながら歩いた。昔は稲刈りも「協働」だった。日本の「村社会(地縁・血縁の結びつき)」が崩壊してきた。村おこし、町づくりが各地で取り組まれている。

「人と人とのつながり」を強くするためにスポーツを通じて、スポーツが楽しみの中核となって、人が集う地域のスポーツクラブ。一人で黙々とやるのではなく、隣近所の人と一緒にやりましょう。クラブをつくるのではなく、クラブを創る想いをカタチつくる。お二人のクラブ創りの話を聴いて、これはまちづくりと感じた。「想いを持って取り組んでいったことが、結果として、振り返いたら総合型クラブであった」こんな総合型クラブを目指していただきたい。と話した。